

科目区分	専門分野 I	科目名	共通基本技術 I (環境と安全)	対象学生	第1学年
		単位数(時間数)	1単位(30H)	学 期	第1学期
担当講師	田村 智子(臨床経験11年、教育経験10年)、近藤 三枝(臨床経験16年、教育経験6年)				
科目目標	看護に必要な基本技術の概念を理解し、環境調整と安全確保の基本的技術を習得する。				
授業概要	看護技術とは:2H 担当:田村 智子				
第1回	看護技術とは 1. 看護技術の特徴 2. 看護技術の範囲 3. 看護技術を適切に実施するための要素				
環境:18H	担当:田村 智子				
第1回	療養生活における快適な環境条件1 1. 環境の概念 1) 内部環境・外部環境とは 2. 療養生活と環境 3. 療養環境の空間 1) 病室の種類(個室・多床室) 2) 医療法施行規則 3) パーソナルスペース				
第2回	療養生活における快適な環境条件2(講義・演習) 1. 環境条件 (温度、湿度、換気、採光、臭気、騒音) 2. 環境測定				
第3回	療養環境整備(講義・演習) 1. 環境整備の目的 1) 目的 2) 必要物品 3) 手順と根拠、留意事項 2. 作業域の調整・動作 1) 作業に必要なスペース 2) ベッドの操作方法 3) ワゴンの使用方法				
第4回	ベッドメイキング1(講義・演習) 1. ベッドメイキングの目的 2. ベッドメイキングの種類と特徴 3. クローズドベッドの作成方法 1) 必要物品 2) シーツのたたみ方				
第5回	ベッドメイキング2(演習) 1. クローズドベッドの作成方法 1) 下シーツの敷き方、三角コーナーの作成 2) 横シーツのさばき方 3) 防水シーツの敷き方 4) 横シーツの敷き方				
第6回	ベッドメイキング3(演習) 1. クローズドベッドの作成方法 1) 上シーツの敷き方、足元タックの作成、足元四角コーナーの作成 2) 毛布の敷き方、足元四角コーナーの作成 3) スプレットの敷き方 4) 枕カバーのかけ方 2. オープンベッドの作成方法				
第7回	臥床患者のリネン交換(演習) 1H 1. デモンストレーション				
第8回	臥床患者のリネン交換(演習)				
第9回	療養環境の実際(環境測定)(演習)				
第10回	実技試験:リネン交換 1H				
安全:10H	担当:近藤 三枝				
第1回	感染予防1 1. 感染予防の基礎知識 2. 標準予防策(スタンダード・プリコーション) 1) 衛生学的手洗いの方法 2) 個人防護具(マスク・エプロン)の方法				
第2回	感染予防2 1. 感染経路別感染予防策 1) 空気感染 2) 飛沫感染 3) 接触感染 2. 感染性医療廃棄物の取り扱い 1) 洗浄・消毒・滅菌法				
第3回	感染予防3(講義・演習) 1. 滅菌物の取り扱い(無菌操作) 1) 滅菌包みの開け方 2) 滅菌物の取り出し方 3) 鉗子・鑷子の取り扱い 4) 綿球の取り扱い 5) 滅菌手袋の着用方法				

科目区分	専門分野 I	科目名	共通基本技術 I (環境と安全)	対象学生	第1学年
		単位数(時間数)	1単位(30H)	学 期	第1学期
担当講師	田村 智子(臨床経験11年、教育経験10年)、近藤 三枝(臨床経験16年、教育経験6年)				
第4回	安全管理1				
第5回	1. 安全の意義と目的 2. 医療事故の種類 3. 安全を阻害する危険因子 4. 医療事故の現状 5. 事故防止対策				
第6回	1) 患者誤認防止の方法 2) 誤薬防止の方法 3) 転倒転落防止 終了試験: 1H				
看護師国家試験出題基準					
看護技術とは 個人の尊厳、患者の権利、自己決定権と患者の意思、インフォームド・コンセント、情報管理、自律尊重、善行、公正、正義、誠実、忠誠、無危害、説明責任、倫理的配慮、権利擁護、信頼関係、援助関係、協働関係、根拠に基づいた看護(EBN)、クリティカルシンキング、安楽の概念					
環境 水質、大気、土壌、住環境、病室環境、共有スペース、居住スペース、ボディメカニクスの原理と看護実践への活用、安楽な姿勢・体位の保持、安楽を保つための療養環境の調整、環境調整の意義、療養環境のアセスメント、療養環境の調整と整備					
安全 転倒・転落の防止、誤薬の防止、患者誤認の防止、情報伝達と共有・管理、標準予防策(スタンダード・プリコーション)、手洗い、無菌操作、滅菌と消毒、感染性廃棄物の取り扱い、感染の成立と予防、標準予防策(スタンダード・プリコーション)と感染経路別予防策、滅菌法、感染性廃棄物の取り扱い、感染拡大の防止の対応、医療安全の概念と安全管理(セーフティマネジメント)、誤薬の起こりやすい状況と対策、転倒・転落の起こりやすい状況と対策、チューブ・ライントラブルの起こりやすい状況と対策					
授業の進め方					
看護技術は、デモンストレーションやDVDの視聴によりイメージを図る。 学内実習を行い、相互評価の中で技術を習得する。 安全、安楽、プライバシーに配慮した看護技術が習得できるよう授業展開する。					
履修のポイント・留意事項					
形態と機能 I、日常生活援助技術 I(活動・休息)、物理学(ボディメカニクス)などを想起し、科学的・理論的裏づけをする。 看護技術の基本となる理論(看護学概論、看護理論)を想起し、看護技術の基本原則を理解する。 原理原則に基づき校内実習を展開する。 根拠を明確にし、確かな知識に裏づけられた技術が実施できるよう取りくむ。 実技試験に臨むにあたっては技術練習を複数回行い、主体的に指導をうける。					
テキスト					
系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II 医学書院 看護実践のための根拠がわかる基礎看護技術 メヂカルフレンド社 系統看護学講座 専門基礎 看護関係法令 医学書院					
評価方法					
課題レポート・授業態度(演習参加度)・科目終了試験(80%) 技術試験:リネン交換(20%) ※終了試験、課題レポート、授業への取り組み状況等、総合的に評価する。					